

国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 E-mail: jifrs.kaiyodai@gmail.com

郵便振替番号：00100-6-26448 国際漁業学会

2022 年度第 1 号

2022 年 7 月 4 日刊

目次

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1. 理事あいさつ「JIFRS から世界へ」 | 牧野光琢 |
| 2. 2022 年度 JIFRS 大会（東京大会）のご案内 | 婁小波・事務局 |
| 3. 2022 年度 JIFRS 大会シンポジウムのテーマ | 婁小波 |
| 4. 2023 年度 JIFRS 大会シンポジウム企画募集 | 宮田勉 |
| 5. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼 | 川辺みどり |

1. JIFRS から世界へ

牧野光琢（国際漁業学会理事・東京大学）

JIFRS の理事を拝命しております、東京大学大気海洋研究所の牧野光琢でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学会とわたくしの関わり始めは、西暦 2000 年ごろだったでしょうか、まだ JIFRS が学会になる前の、国際漁業研究会だった頃にさかのぼります。当時の会長は鹿児島大学の松田恵明先生で、私は京都大学にある人間・環境学研究科という大学院の学生でした。松田先生から、国際的な会議の準備やそのためのコミュニケーションの重要性、心配りの仕方など、身をもってご教示いただいたことは、今現在に至っても本当に大切な教訓として、国際共同研究のたび思い返しております。

また当時の JIFRS では、山本忠先生もまだ元気にご活躍でした。山本先生は、戦前の農林省水産局職員から、戦後の FAO、その後の SEAFDEC など、日本と世界の漁業政策史（特に統計制度史）を実際に作ってこられたレジェンドのような先生でした。2004 年に東京海洋大学で IIFET 大会をホストした際には、エクスカージョンの現地調整やレセプションの用意（鯨肉も出しました）、セッションの企画立案、そして参加者に配布した *Japan and Her Fisheries* という冊子の編集などを通じて、山本先生・松田先生のご薫陶をいただきました。

この 2004 年大会に山本先生が私財をご寄付されて創設し、今日まで続いている JIFRS-Yamamoto Prize については、みなさまよくご存じのこととおもいます。発展途上国の多くの優秀な学生さんたちが、この JIFRS-Yamamoto Prize のおかげで国際的な場を踏む

ことができ、その後の大活躍につながっています。日本が水産経済学の国際的なネットワークにおいて名誉ある地位を占めることができている一つの大きな要因は、この JIFRS-Yamamoto Prize にあることは間違いありません。

JIFRS や IIFET を通じて、私自身も多くの友人を海外に作ることができました。たとえば NOAA Fisheries の Economist だった Dr. Alan Haynie (現・ICES 事務局長) は、家族づきあいをする親友となりましたし、今も一緒にプロジェクトを進めています。IIFET の会長を務めておられたカナダ St.Mary's 大学の Tony Charles 先生は、今の私にとっては師匠とも言える先生です。FAO、PICES (北太平洋海洋科学機構) の会議や、OECD 水産委員会、各地の国際シンポジウム等でご一緒させていただくのみならず、カナダの科研費プロジェクトにも参加させていただき、現在もある国際委員会でご一緒させていただいております。また、当時はまだ URI の内田先生の部屋の学生さんだった若松宏樹さん (本学会理事、農林水産政策研) とは、確か IIFET モンペリエ大会でおいしいビールをご一緒しましたが、なんとその後、(国研) 水産研究・教育機構で同僚として働くことになり、現在もいろいろ教えていただいています。

その他にも素晴らしい友人がたくさんできましたが、JIFRS/IIFET は国際的な水産経済学関連の人的ネットワークを築くうえで、私にとってかけがえのない場でした。これは後になってわかること (当時は必死でしたし、自分を客観視できなかつたのでわからなかつたこと) ですが、本当に恵まれていたとおもいます。2021 年から始まった国連海洋科学の 10 年 (UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development: UNDOS) でも、社会科学関係で国際的に活躍されている研究者の中には IIFET でお見かけしたり、ご一緒させていただいたりした先生方が多くおられます。「知ってる人がいる」というだけで、自分の安心感とかやる気もまったく変わってくるものです。ありがたいです。

海は国と国を繋ぐものです。魚をはじめとする海の恵みは本質的に国境をこえるものです。その探究を通じて、国境を超えた友情と信頼をはぐくむことができる研究者という仕事は、素晴らしい職業だとおもいます。そして何より、研究者としてのみならず、人として、人生の先輩として、あるいは友として、敬愛できるような素晴らしい人に出会うことができます。そのような人は、いってみれば、人類の文明の State of the art です。もちろん日本にもそのような素晴らしい研究者が沢山おられますが、世界にはその何十倍もいます。そのような世界の宝と知り合うことができることが、国際学会の最大の楽しみであり、重要な機能でもあります。

日常雑務に忙殺されてしまい、全くもって学会運営のお手伝いできていないことを申し訳なく思っているところですが、これからの日本の漁業研究を担う若い方々がこの機能をフルに活用していただけるよう、微力ではありますがお役に立ちたいと思っております。

2. 2022 年度 JIFRS 大会 (東京大会) のご案内

婁小波 (国際漁業学会会長・東京海洋大学)・事務局

2022 年度大会はオンライン開催 (Zoom によるリアルタイム形式) となります。詳細は会員宛てのメール等で後日アナウンスします。多くの会員、関係者の皆様からのご参加をお待

ちしております。

開催校：東京海洋大学 品川キャンパス 〒108-8477 東京都港区港南4丁目5-7

(※シンポジウム、個別報告、総会、懇親会等はオンライン開催を予定)

日時：2022年(令和4年)8月27日(土)～28日(日)

日程：8月27日 午前：各種委員会・理事会

午後：シンポジウム

夜：懇親会

8月28日 午前：ミニ・シンポジウム

個別報告(申し込み数が多ければ午後も)

午後：総会等

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は1報告あたり25分(質疑含む)の予定です。個別報告を希望する会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを、7月15日までに国際漁業学会事務局(jifrs.kaiyodai@gmail.com)までご連絡ください。また、7月29日までに報告要旨(40字×25行以内)を、8月19日までにパワーポイント等による報告資料(当日までに改変可、事前に座長に渡します)を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

・報告論文について

シンポジウム報告および個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする10枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで(ただし、審査は原則として2回までとする)、掲載料は1万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

◆参加費

大会参加費：一般会員 2,000円、一般非会員 3,000円(地元漁業関係者・学生は無料)

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ(<http://www.jifrs.info/>)からダウンロードをお願いします。(8月中旬に掲載します)

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

3. 2022年度JIFRS大会シンポジウムのテーマ

《大会シンポジウム(案)》

日時	2022年8月27日(土)	13:00-17:35
座長	宮田勉(国立研究開発法人国際農林水産業研究センター)	
開会挨拶	学会長 婁小波(東京海洋大学)	13:00-13:05

テーマ：水産の成長産業化を支える新たな仕組み

本シンポジウムでは、国内水産業の成長産業化を支える新たな社会的仕組みに焦点を当て、現在期待されるいくつかの代表的なものを取り上げて、その可能性と課題について検討する。「水産政策の改革について」と題される政府方針(2018年6月)が打ち出されたことを受けて、漁業法は「70年ぶり」といわれる大改正が行われ、総量規制制度の導入、漁業権制度の見直し、さらには漁場管理制度の創設などの改革が行われた。その結果、漁業法はそれまでの「調整法的」役割から「資源管理法的」役割へとその法的性格を大きく転換させ、そして大臣許可漁業を対象として、生産性の向上に努めることを許可漁業者の責務として課すようになり、生産性を勘案する許可方針が打ち出されるようになった。また、『未来投資戦略2018－「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革－』（平成30年6月15日閣議決定）を受けて、水産庁では水産バリューチェーンの構築や流通合理化を通じてスマート水産業の実現を目指している。さらに、「成長戦略（2019年）の一環として提示された「令和元年度 革新的事業活動に関する実行計画」（令和元年6月21日閣議決定）により、水産物の輸出促進のための認証制度の利活用が打ち出されるようになった。それらによって、資源の持続的利用の実現とフードチェーンの最適化を通じて、水産業の国際競争力を強化するとともに、世界のフードシステムとの接続や国民への水産物の安定供給を図る水産業の成長産業化を図ることが目指されている。ここでは、こうした政策目標を実現するために期待されている新たな社会的仕組みとして、生産性評価、水産物電子商取引、エコラベル認証の三つを取り上げる。

報告1	木村聡志（水産庁資源管理部管理調整課） 「漁業の生産性評価をめぐる諸課題」	13:25-14:05
報告2	調整中：松井隆宏（東京海洋大学）他 「漁業経営の財務・生産性・効率性分析の研究動向（仮）」	14:05-14:45
	休 憩	14:45-14:55
報告3	中原尚知（東京海洋大学） 「水産物流通システムとしての電子商取引」	14:55-15:35
報告4	大石太郎（東京海洋大学） 「世界のフードシステムとの接続－エコラベルの諸問題」	15:35-16:15
	休 憩	16:15-16:25
コメント1	猪又秀夫（下関水産大学校）	16:25-16:35
コメント2	若松宏樹（農林水産省農林水産政策研究所）	16:35-16:45
	ディスカッション	16:45-17:30
	閉会挨拶 学会副会長 宮田勉	17:30-17:35

4. 2023年度JIFRS大会シンポジウム企画募集

宮田勉（国際漁業学会大会運営委員長・JIRCAS）

2023年度JIFRS大会のシンポジウム企画を募集します。応募される方は下記の要領にて仮題と概要をお知らせくださいますようお願い致します。皆様からの奮ってのご応募をお待ちしております。

応募内容：仮題および概要（800～1,200字程度）

応募締切：2022年8月5日

連絡先：国際漁業学会事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）

応募内容をもとに立案した企画は、次号の短信に掲載する予定です。

5. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

川辺みどり（国際漁業学会 学会賞選考委員長・東京海洋大学）

2022年度の学会賞候補者の選考を開始します。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。推薦の際、歴代受賞者リストも参照ください。

国際漁業学会 学会賞の選考要領は下記の通りです。

授賞の対象は、以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。書籍については、2020年7月1日以降の業績が対象です。

<奨励賞>原則として40歳代以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第18以降巻の掲載論文が対象となります。

募集期間：2022年7月29日（金）締め切り

推薦方法：推薦する対象者、賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS会長（婁小波 lou(at)kaiyodai.ac.jp）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会員からの推薦をもとに、会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2022年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

◆学会賞（国内賞）の歴代受賞者リスト

（2022年6月現在）

氏名	受賞時所属・職名	受賞年月日	備考
松田 恵明	鹿児島大学 名誉教授	2011年8月4日	功績賞
真道 重明	-	2012年8月5日	功績賞
八木 信行	東京大学 准教授	2012年8月5日	学会賞
中島 亨	東京大学 特任助教	2012年8月5日	奨励賞
松井 隆宏 原田 幸子	三重大学 准教授 株式会社地域資源経済研究所 研究員	2012年8月5日	奨励賞
榎 彰徳	NPO 法人 消費者支援機構関西 理事長	2013年8月4日	功績賞
有路 昌彦	近畿大学 准教授	2013年8月4日	学会賞
猪又 秀夫	水産庁	2015年8月9日	学会賞
小野 征一郎	東京水産大学 名誉教授	2016年8月7日	功績賞
黒倉 寿	東京大学 名誉教授	2017年8月6日	功績賞
阪井 裕太郎	Arizona State University Post-Doctoral Research Associate	2018年8月7日	奨励賞
森下 丈二	東京海洋大学 教授	2020年8月29日	学会賞